

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

放送部の甲子園ともいえる大会で2年連続決勝進出の快挙！



深谷第一高校放送部の皆さん
(顔写真は受賞作品を制作した1年生の代表者)
保泉碧さん 大森星空都さん
柳 沢結花さん

NHK杯全国高校放送コンテスト
創作テレビドラマ部門 準優勝受賞！

「え！という驚きと共に、代々放送部が強い深谷第一高校の一員に仲間入りができてうれしかったし、家族にも褒めてもらえました。」と笑顔で受賞の喜びを語るのは深谷第一高校放送部の1年生です。このたび、放送部の甲子園ともいえる『NHK杯全国高校放送コンテスト創作テレビドラマ部門』で見事に準優勝を受賞しました。これにより、放送部は去年の創作テレビドラマ部門優勝に続き、2年連続の決勝進出という快挙を果たしました。

今回の受賞作は、1年生部員11人で制作。大人数だからこそ、たくさんのアイデアを出し合うことができ、それぞれを組み合わせることでより深い作品づくりができたといいます。作品づくり

で大変だったことを伺うと「作品では、映像の動きに後から音を足すのですが、実際の動きの音に近い音やピッタリと合う音を探す作業が大変でした。」と納得いく作品づくりの裏に隠れた苦勞を教えてくださいました。

入学後、大会応募まで2カ月という短い期間で、演者、撮影、編集というそれぞれの役割を協力して行い、制作過程を通じて作品づくりの面白さや技術を学んだという1年生部員。「今回の受賞作は、先輩の教え無しには無理でした。丁寧にコツを教えてくれる先輩たちがかっこよかったので、自分もそんな先輩になりたいですね。」と今後の目標を語ります。その熱い想いは、放送部の伝統と栄光を次の後輩へとつなぎます。



▲今回受賞した賞状やカップとともに記念撮影をする深谷第一高校放送部の皆さん

男女共同参画 情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気で笑顔で参画するまち ふかや
個人権政策課 ☎574 - 6643

『誰か』のことじゃない。～性の多様性への理解を深めよう～PARTIV 知っていますか？『パワハラ防止法』

令和2年6月1日、『改正労働施策総合推進法（パワハラ防止法）』が施行され、大企業は施行と同時に、中小企業は令和4年4月からパワー・ハラスメントの防止対策を講じることが義務付けられました。

厚生労働省が定めた指針には、相手の性的指向や性自認に関する侮辱的言動（SOGIハラスメント）や、労働者の性的指向・性自認などを本人の了解を得ずに暴露すること（アウトティング）はパワハラであると明記されています。

事業主は、SOGIハラスメント・アウトティングを行ってはならないことを就業規則などに記載し、かつ従業員へ周知・啓発することが求められています。

～性の多様性について事業所向け研修会を実施しました～

深谷市では、8月25日、男女共同参画推進員を設置する事業所を対象に、研修会を実施しました。初めての試みでしたが、6事業所に加え個人のかたの参加もあり、研修後のアンケートでは、『性の多様性について理解が深まった』という感想が寄せられました。今後も第2回、3回と継続する予定です。

参加事業所（五十音順） 国際スプリング(株)、パーカーアサヒ(株)、はやし物産(株)、(株)フォレスト、深谷市社会福祉協議会、三菱電機ホーム機器(株)

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか 散歩

⑩ 深谷テラスパーク

今日は、5月にオープンした深谷テラスパークに遊びに来たよ。広～い公園内には、遊ぶところだけでなく、深谷の魅力を知ることができるスポットもあるんだって！早速、散歩してみよ～っと。



▲ふっかちゃんが描かれた遊具があったよ。深谷の野菜やチューリップをモチーフにした遊具なんだって！たくさんのお友達に遊んでもらいたいな。◀管理棟の前にある『円形広場』では、さまざまなイベントができるんだって。この日はいろんなお店が出ていたよ。



▲管理棟にある大型デジタルサイネージでは、深谷の魅力と情報を発信しているんだよ！屋上の展望デッキからは秩父の山々などの景色が堪能できるんだ。

ふっかちゃんのつぶやき

ハロウィンがもうすぐやってくるね！トリックオアトリート！と言ってお菓子をたくさんもらっちゃおう～っと♪ Y(o0w0o)Yにやほ



心の広場

川本南小学校6年
(現川本中学校1年)
萩原 渉さん



分かり合うこと

ぼくは、小さいころからサッカーをやっていて、今では当たり前のように毎日サッカーをしています。ボールをおいかけているとき、ぼくはとても幸せな気持ちになります。しかし、事故やけがで足を切らなければならぬこともあります。

ぼくは、サッカークラブチームの人達と一緒に、アンパティサッカーをしたことがあります。アンパティサッカーとは、上肢または下肢に切斷障害等のある人のサッカーです。フィールドプレイヤーは二本のクラッチを使用してプレーします。このクラッチとは、医療用補助器具で自分の体重を支える棒のことです。

アンパティサッカーを実際にやってみたら、すごくおもしろくて楽しかったです。ぼくは、サッカーを毎日しているのに、アンパティサッカーをやってみると、全然できなくて、周りのみんなもできなくて、けれど楽しかったです。

実際にアンパティサッカーの試合を見たことがあります。すごく迫力があるなと思いました。

ある時、アンパティサッカーをしている人が義足をはずしたときに、ぼくのチームメイトが切斷した足を見て、「気持ち悪い。」と言って、アンパティサッカーをやっている人たちが落ちこんでしまったことがありました。ぼくは、チームメイトのA君に、「言っちゃいけないよ。」と言ったら、「わかった。」と小声で答えてくれました。A君にとって悪気がなかったかもしれないけれど、受け取る人にとっては心をいためる言葉になるかもしれません。このようなことが積み重なって、差別につながってしまうのではないかと思います。

A君が言ったことを反省して「ごめんさい。」と言っていたので、ぼくの心はずっきりしました。なぜなら、言ったことは、軽い気持ちだったとしても、人の死にもつながるかもしれないし、逆に良いことを言えば人は笑顔になるからです。言葉は重要だとあらためて感じました。ぼくも、人をきずつけないように言葉づかいに注意しようと思います。また、友達が悪いことを言っていたら、気をつけるように言いたいです。

ぼくが分からないうちに、人をきずつけてしまっていたら、その人に「ごめんさい。」と言います。また、友達に良いことを言われたら、「ありがとう。」と言いたいです。

ぼくは、このアンパティサッカーを通して、障害をもっている人とサッカーと一緒に楽しむことができ楽しかったし、心が通じ合うことができたと思います。他の障害をもつ人や、立場のちがう人とも、同じように接していき、分かり合っていきたいです。